

I. 第32期(2020年4月1日～2021年3月31日)事業報告

2020年度事業は、5つの委員会と研究所直轄による運営によって、3つの公益事業（1. 医療科学に携わる研究者を育成する事業、2. 医療科学の研究成果を社会に還元する事業、3. 医療科学を自主的に推進する事業）を推進した。

新型コロナウイルス感染拡大抑制のための行動規制の影響を受けて、5月に予定していたシンポジウムと月例の研究会のうち4月、5月、11月を中止したが、事業所のコロナ対策を講じながら、リモートシステムの拡充によってリモート会議を併用しながら、年度の後半は、ほぼ予定通り事業を進行させた。

公益事業1：医療科学に携わる研究者を育成する事業

1. 研究助成（研究助成選考委員会）

2020年度は5月11日に全国大学などの研究組織へ募集案内ポスターを配布し、研究所ホームページに研究助成募集を公開し、メディアリリースを行った。

募集は6月30日に締め切り、42件の応募があり、そのうち50万円以上の申請は、13件であった。応募された42件の研究計画書について、委員から提出された評価表をもとに50万円枠及び100万円枠を個々に個別評価の高い平均点上位より1件ずつ審議を行った。

審議の結果、今年度は100万円枠に該当する研究テーマの候補者がいないため、予算総額（600万円）を全て50万円枠に充てることとし、12件を採択した。10月30日に医療科学研究所会議室にて贈呈式を開催した。

1) 第1回研究助成選考委員会

2020年4月1日に開催を予定していた第1回研究助成選考委員会は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う自粛要請を考慮し、委員長、理事長の協議のもと、以下の内容について委員間のメール審議とした。

(1) 募集・選考要領の確認

2020年度の選考要領及び選考スケジュールは昨年度と同じ内容で進めること、また、新たな募集要項案内先として、事務局から提案された、過去の応募者、医研OB、医療経済研究会メンバーへの案内を追加することとなった。

(2) 審議を踏まえての提案

菅原委員より、100万円受領者への義務として医療経済研究会でご報告いただくことになっているが、その報告時期については、現状、募集要項に記述がないため、おおよその報告時期を示しておくのが望ましいとのコメントがあった。それを受けて事務局からの提案として、募集要項に以下のように記載することを提案した。

「100万円受領者は最終成果報告書提出後、医療科学研究所にて開催される医療経済研究会（医療科学に関する研究の発表、特に若手研究者の育成を目的とした研究発表の場）で研究成果を発表する。」

この事務局案は、医療経済研究会を管轄している自主研究委員会委員長に確認し、了解が得られた。

2) 第2回研究助成選考委員会及び2020年度研究助成選考委員会選考会議

(1) 第2回研究助成選考委員会

① 日時：2020年8月24日（月）15:00～15:10

② 出席者

〈委員〉：池田俊也、萱間真美、近藤尚己、菅原琢磨

〈オブザーバー〉：江利川 毅、戸田健二

〈事務局〉：囁口 肇、今上妙子、五十嵐裕子

池田委員長の任期が委員会共通規程の限度である3期となったため、新委員長選出を行った。江利川理事長より萱間委員の委員長就任の推薦があり、それを受けて全会一致で選任され、萱間委員が委員長就任を承諾した。委員会では、贈呈式開催について意見が出され、感染状況を考慮しながら事務局で検討し、委員長と再度確認することとなった。

(2) 2020年度研究助成選考委員会（選考会議）

萱間委員長の進行により2020年度研究助成選考会議を行なった。

① 応募状況の報告

2020年5月11日に全国大学などの研究組織へ募集案内ポスターを配布し、研究所ホームページに研究助成募集を公開し、メディアリリースを行った。募集は6月30日に締め切り、42件の応募があった。42件のうち50万円以上の申請は13件の応募であった。

② 研究助成選考

応募された42件の研究計画書について、委員から提出された評価表をもとに、50万円枠及び100万円枠を個々に個別評価の高い平均点上位より1件ずつ審議を行った。また、上位に入っていないテーマも委員評価「5」がある研究計画に対して別途審議を行った。

審議の結果、今年度は100万円枠に該当する研究テーマの候補者がいないため、予算総額（600万円）を全て50万円枠に充てることとし、12件を研究助成の候補として採択した。また、辞退が生じた場合の対策として次点候補を1件選出した。

候補中3件は委員より懸案事項が指摘されたため、事務局より申請者へ確認したところ、全員より回答が得られ懸案事項については問題ないことを確認した。

採択候補者1名より、同一テーマで他機関での助成金に採択されたため、申請の取り下げがあった。次点候補者については、先行研究をどう踏まえるのか、さらにAI・臨床に詳しい専門家の意見をよく聞いて研究を進めるべきとの委員会のコメントがあり、次点候補に問い合わせたところ問題ないように対応するとの返事があった。以上を踏まえて、繰り上げ採択することとなった。

3) 研究助成対象者理事会決議の省略

研究助成選考委員会で決定した対象者を定款第48条(決議の省略)の規定に従い、理事会の承認を受けた。

研究助成対象者12名と研究テーマは以下の通り。

(1) 重症熱傷患者広域医療連携の知見に基づく重症患者集約化モデルの確立

杏林大学医学部救急医学 助教 加藤聡一郎

(2) 22q11.2欠乏症候群のある当事者の養育者の抱える困難感と養育を通しての変化に関する質的分析

東京大学医学部附属病院精神神経科 特任助教 金原明子

(3) 肝臓治療における医療費、費用対効果の評価

東京大学医学部附属病院 肝胆膵外科・人工臓器移植外科 助教 河口義邦

(4) 口腔状態の変化から認知症発症におけるパスウェイの解明：因果媒介分析を用いた検討

東北大学大学院歯学研究科 博士課程 木内 桜

(5) 福島第一原発事故10年 原子力災害対策の構築に向けた生活影響の質的調査

獨協医科大学医学部 特任講師 小正裕佳子

(6) 妊娠に関連する不安の尺度の開発と日本人妊婦の不安に関わる背景因子の検討

- (7) 集中治療室における薬剤師業務の標準化に関する実態調査とその推進化対策の構築
徳島大学病院総合臨床研究センター 特任助教(現：旭川医科大学) 中馬真幸
- (8) 職場移動・異動を経験した病院看護職の個人-環境適合感に関する研究
東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻看護管理学分野 修士課程 長岡紗規子
- (9) 学生ピアゲートキーパー育成プログラムの自殺予防に対する効果検証：無作為化比較
対照試験
東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻精神看護学分野 博士課程 野沢恭介
- (10) 女性生殖器がん患者の治療後性機能障害に関する情報探索行動についての質的調
査：情報提供ツール開発に向けて
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野 博士後期課程 前田紗江
- (11) 慢性心不全看護認定看護師の臨床的アウトカム改善効果のDPCデータを用いた解明
東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 博士課程 増田有葉
- (12) 医療AIの倫理規範の確立を目指した日本・英国・台湾・米国の比較実証研究
東京大学糖尿病代謝内科登録研究員 / King's College London 客員教授 山田朋英
(五十音順)

4) 2020年度研究助成贈呈式

(1) 日時：2020年10月30日(金) 16:00~17:10

(2) 出席者

萱間真美委員長、池田俊也委員、近藤尚己委員、江利川 毅理事長、戸田健二専務理事
<事務局等> 川村高紀、中村秀子、今上妙子、五十嵐裕子、横内陳正、由井秀樹

感染防止対策のもとに医療科学研究所にて開催した。贈呈式には、研究助成金受領者12名
中8名が出席し、萱間委員長にご挨拶いただき、自己紹介ならびに研究計画の概要の発表後、
選考委員の池田先生、近藤先生からコメントと激励の言葉をいただいた。

2. 医療経済研究会（自主研究委員会）

1) 医療経済研究会

年度計画では、8月、12月を除き毎月開催する予定としていたが、コロナ禍によって4月
と5月、11月の開催を中止した。過去の研究助成受領者を中心に7回開催した。内容は以下
の通りである。（※：医研研究助成対象者）

(1) 6月29日（座長：萱間真美）参加者17名

「短時間勤務看護職における業務内容、職務特性および職務満足の関連」

駒形万里絵（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻博士課程）※

(2) 7月27日（座長：池田俊也）参加者13名

「近隣の農家密着、農業の種類、高齢者の抑うつ：JAGESデータを用いた横断研究」

金森万里子（東京大学大学院医学系研究科健康教育・社会学分野博士課程）※

(3) 9月28日（座長：近藤克則）参加者25名

「健康政策における『地域・コミュニティ』のコンセプトマッピングプロジェクト」

橋本英樹（東京大学大学院医学系研究科教授）、田中 滋（埼玉県立大学理事長）

(4) 10月26日（座長：中村好一）参加者17名

「Grounded theory approachを用いた小児集中治療室に入院した子どもの頑張りに関する探索的研究」

岩田真幸(慶應義塾大学健康マネジメント研究科博士後期課程) ※

- (5) 1月25日(座長:中村好一) 参加者18名:リモート併用
「従業員のキャリア発達に着目した新たな職業性ストレスモデルの定量的評価」
横内陳正(医療科学研究所研究員)
- (6) 2月22日(座長:池田俊也) 参加者23名:リモート併用
「ベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬の長期処方に関する実態調査」
高野 歩(東京医科歯科大学 精神保健看護学分野准教授) ※
- (7) 3月29日(座長:武藤香織) 参加者15名:リモート併用
「日本における非配偶者間人工授精の歴史:子に対するフォローアップ調査に着目して」
由井秀樹(山梨大学医学部社会医学講座特任助教、医療科学研究所客員研究員)

3. 研究員育成(研究員育成委員会)

1) 第1回研究員育成委員会

(1) 日時:2020年6月19日(金) 14:00~15:45

(2) 出席者

〈委員〉:小塩隆士、萱間真美、中村好一、三村優美子

〈オブザーバー〉:江利川 毅、戸田健二

〈事務局〉:嚙口 肇、五十嵐裕子

(3) 内容

療養中の望月委員長に代わり、中村委員が委員長代行として選任された。中村委員長代行の進行により以下の議事の確認を行なった。

① 2019年度退職研究員

本年3月末で退職した Namino Ottewell 研究員の研究成果と医研退職後の就職先について事務局から報告された。

② 研究員研究計画発表

横内陳正研究員と由井秀樹研究員が、医研で行う研究の計画を発表した。

③ 研究員募集

研究分野を限定しない「自由選択分野」の募集枠については、従来案通り募集を行うことが全会一致で了承された。研究分野を限定する「最先端技術と医療分野」の募集枠については、以下のコメントが出された。

- i) 採用時期を4月、10月とせず、「応相談」などとしてフレキシブルにしているかがか。
- ii) 募集分野の記載に加えて、テーマの具体例や医研がシンポジウムで取り上げたテーマ等を示しているかがか。
- iii) ITの実務に従事するのではなく、ITを研究対象とし、アカデミック領域に進みたいと考えている人を対象にしていることを明記しているかがか。

④ 研究員育成委員会規程の一部修正

研究員育成委員会規程の研究員応募者の審議及び議決に加入しない委員の要件の記載方法について主旨が明確になるよう文章を整理し、誤解が生じないように微修正を施すことを説明し、全会一致で了承された。

3) 2021年4月採用研究員の公募(1回目)

2019年4月採用の横内研究員が2021年3月に任期満了で退職予定のため、2021年4月採用の研究員の公募を「自由選択分野」と「最先端技術と医療分野」で9月2日~10月31日に実施した。

10月31日の締め切りまでに「自由選択分野」に2名の応募があり、書類審査により両名と面接することになったが、その後1名の辞退があった。12月18日に面接を兼ねる第2回研

究員育成委員会を開催した。面接後、候補者から辞退があった。

4) 第2回研究員育成委員会

(1) 日時：2020年12月18日（金）15:00～16:20

(2) 出席者

〈委員〉望月真弓委員長、小塩隆士、萱間真美、中村好一、三村優美子

〈オブザーバー〉江利川毅、戸田健二

〈事務局〉川村高紀、五十嵐裕子

(3) 内容

① 採用面接

委員から応募者に対して、医研での研究計画、在籍中の厚労省との関係、動機等について質問がなされた。審議では、研究計画の妥当性について応募者がメンターとして希望されている近藤先生のご意見をさらに訊くことが提案され、事務局が近藤先生のご意見を訊く機会を別途もち、結果を委員会に報告することとなった。（12月22日、近藤先生とのリモート会議実施）

後日、候補者から医研での研究の希望は強いものの諸事情により応募を取り下げたい旨の連絡があり、状況を事務局から委員長、委員に報告した。

② 追加募集の際のスケジュール案

研究員の追加募集を行うこと、12月中に募集を開始して応募締切は2021年1月29日とし、2月中に書類選考をお願いし、3月第1～3週に面接選考を行っていただくスケジュール案が了解された。

③ 募集要項の検討

i) 募集分野

新規募集は、自由選択分野のみとすることで了承された。

ii) メンター

希望するメンター候補者がいる場合は候補者名を記載し、メンター候補者に事前に了解をとる必要はないとすることで了承された。

iii) 2021年4月1日の勤務開始

採用決定から勤務開始の4月1日までの期間が短いことから、勤務開始日は応相談として、事情によって遅らせことができることを記載することで了承された。

iv) 推薦書の必要性

推薦書の提出は必須ではないとしているものの、医研研究員のヒアリングから、推薦書の有無が採否に影響するのではないかと思う一方で、推薦書を書いてもらうのは負担感があるとの意見があり、推薦書は不要とすることで了承された。

④ 由井秀樹研究員の退職の報告

2020年4月から勤務を開始した由井研究員が医研を退職し、2021年1月1日付で、山梨大学医学部社会医学講座 特任助教として異動し、それに伴って医研客員研究員となることが報告された。

5) 第3回研究員育成委員会

(1) 日時：2021年3月9日（火）15:00～16:20

(2) 出席者

〈委員〉望月真弓委員長、姉川知史※、小塩隆士※、三村優美子

〈オブザーバー〉江利川毅、戸田健二

〈事務局〉川村高紀、五十嵐裕子

(3) 内容

① 採用面接

2020年12月末から2回目の募集を行い、2021年1月末の締切りまでに8名の応募を得た。書類選考の結果4名が面接選考に進み、そのうち1名が応募を取り下げたことから、3名に対して面接選考を行った。1名は海外在住のためにリモートで面接を行った。

応募者に対する面接終了後、審議に入り、1名の採用の決定、1名についてはメンターに希望されている池田先生のご意見を聞いて判断することとなり、会議後、池田先生よりメンター承諾と研究実行案について示唆を得た。その旨、事務局が望月委員長に報告し、採用の了解を得て、委員会に報告した。

以上の結果として、4月より森島 遼氏（東京大学大学院医学系研究科）と頼所つく実氏（国際医療福祉大学大学院医学研究科）の2名を研究員として採用することを決定した。

姉川委員から、既存研究員や他の研究者との交流を促すような工夫を検討すべき、とのコメントが出され、意見交換がなされた。

② 報告事項

2019年4月に勤務を開始した横内陳正研究員が3月末をもって契約を終了し、4月から東京大学社会科学研究所の助教として勤務することが報告された。

6) 2020年度第1回倫理審査委員会の開催

(1) 日時：2020年8月4日（火）13:00～14:00

(2) 出席者

〈委員〉：中村好一（区分1、男性）、小塩隆士（区分2、男性）、三村優美子（区分2、女性）

〈外部委員〉：

川原 章（区分1、男性）、清水沙友里（区分1、女性）、

新田秀樹（区分2、男性）、福田英男（区分3、男性）

※構成委員の区分 1 区分：医学・医療の専門家等自然科学の有識者

2 区分：法律家の専門家等人文・社会科学系の有識者

3 区分：一般の立場を代表する者

〈オブザーバー〉：江利川 毅、戸田健二

〈事務局〉：嚙口 肇、五十嵐裕子

(3) 内容

審査の前に、中村委員長より倫理審査申請の概況報告が行われ、次に國東研究員、横内研究員の順で、研究員が作成した倫理審査申請書（附属文書を含む）をもとに倫理審査を行った。研究員は倫理的配慮の必要な点を中心に研究計画の概要を説明し、質疑応答を経て、研究員が退出した後、委員による検討を行った。その結果、2名の研究計画は、全会一致でそれぞれ条件付承認とされた。最終的な承認は中村委員長に一任することが全会一致で決定された。両研究員に条件付承認の内容通知し、それぞれが研究計画を修正した後、中村委員長が確認した。

1. 機関誌『医療と社会』発刊（編集委員会）

1) 刊行実績と予定

(1) Vol. 30, No. 1：2020年6月刊行

<巻頭言>

「有事における「社会保障」を考える」

野口晴子（早稲田大学政治経済学術院教授／
医療科学研究所理事）

<特集 医療コミュニケーション環境整備の課題と展望—改正がん対策基本法への対応を中心に>

「序文」

中山健夫（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野教授）

「がん医療が問いかける新たな医療コミュニケーション—がん対策基本法およびがん対策推進基本計画で進められてきた情報・支援・ネットワークの現状と課題，そして展望—」

高山智子（国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター
がん情報提供部部長）他

「患者本位のがん医療の実現に向けた医療コミュニケーション環境整備の課題と展望」

早川雅代（国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター
医療情報コンテンツ室室長）他

「尊厳と安心のある社会に向けた緩和ケアと地域づくり—医療者間コミュニケーションの視点から—」

中島信久（琉球大学病院地域医療部診療教授）

「がん患者とその家族・友人が自分を取り戻す居場所—マギーズセンターの試み—」

秋山正子（認定特定非営利活動法人マギーズ東京共同代表理事・センター長／
株式会社ケアーズ代表取締役／白十字訪問看護ステーション統括所長／
暮らしの保健室室長）

「当事者の視点によるコミュニケーションが目指すもの—愛媛での取り組みを通して—」

松本陽子（NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会理事長／
一般社団法人全国がん患者団体連合会副理事）

「Shared Decision Makingの可能性と課題—がん医療における患者・医療者の新たなコミュニケーション—」

石川ひろの（帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授／
帝京大学医療共通教育センター教授）

「ヘルスコミュニケーション学の新たな展開—進化生物学的視点によるがん対策への示唆—」

奥原剛（東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学分野准教授）他
井階友貴（福井大学医学部地域プライマリ ケア講座教授）

(2) Vol. 30, No. 2：2020年8月刊行

<巻頭言>

「災難に逢ふ時節には」

宮原諄二（元一橋大学イノベーション研究センター長・教授／
医療科学研究所評議員）

<医療政策ヒストリー—座談会録>

「医療政策ヒストリー—事業の趣旨」

- 江利川 毅 (医療科学研究所理事長)
- 第6回「2002 (平成14) 年健康保険法等改正」解説
新田秀樹 (中央大学法学部教授)
- 第6回「2002 (平成14) 年健康保険法等改正」座談会
大塚義治 (元厚生省保険局長)
中村秀一 (元厚生省大臣官房審議官)
渡邊芳樹 (元厚生省保険局総務課長)
宮島俊彦 (元厚生労働省保険局国民健康保険課長)
- 第6回「2002 (平成14) 年健康保険法等改正」インタビュー
松谷有希雄 (元厚生省保険局医療課長)
丹呉泰健 (元内閣総理大臣秘書官)
- 第6回「2002 (平成14) 年健康保険法等改正」附属資料

(3) Vol. 30, No. 3 : 2021 年1月刊行

<巻頭言>

「デジタル化における必須の論点」

宮田裕章 (慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室 教授/医療科学研究所理事)

<産官学少人数懇談会概要>

講演

「未来ヘルスケアへの準備：データ駆動型研究を進めていくための方策」

森田正実 (日本製薬工業協会医薬産業政策研究所統括研究員)

「エコシステム時代における製薬企業の変革の方向性と課題」

増井慶太 (デロイトトーマツコンサルティング合同会社執行役員)

「ヘルスケアイノベーションの方向性と製薬産業に期待したいこと」

西川和見 (経済産業省ヘルスケア産業課長)

川口俊徳 (経済産業省企画官ヘルスケア産業担当)

ショートコメント

「当社の認知症エコシステムへの取り組み」

内藤景介 (エーザイ株式会社執行役 チーフデジタルオフィサー (兼)ディメンシア トータルインクルーシブ エコシステム担当)

自由討議

<研究ノート>

「診療所の受診先選択に関する慢性疾患患者の意思決定プロセス」

杉本ゆかり (跡見学園女子大学兼任講師) 他

<特集論文>

「コミュニケーション戦略としての科学的根拠に基づくがん予防・がん検診受診の推進：ソーシャルマーケティングやナッジなどの行動科学の活用した行動変容へのアプローチ」

溝田友里 (厚生労働省健康局健康課課長補佐/

国立がん研究センターがん対策情報センター外来研究員) 他

2018 年度研究助成 研究成果の要旨

(4) Vol. 30, No. 4 : 2021 年 3 月刊行

<新年のご挨拶>

江利川 毅 (医療科学研究所理事長)

<巻頭言>

「誰の命を最初に救うべきか？」

池田俊也（国際医療福祉大学医学部副学部長教授／医療科学研究所理事）

<医研シンポジウム 2020 講演録>

医療科学研究所創立 30 周年記念

「新型コロナウイルス—これまでを振り返り、秋冬に備える—」

開会挨拶

江利川 毅（医療科学研究所理事長）

来賓挨拶

加藤勝信（厚生労働大臣）

座長基調講演

尾身 茂（独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）理事長／
新型コロナウイルス感染症対策分科会会長）

講演

鈴木康裕（厚生労働省顧問〔前厚生労働省医務技監〕）

釜菴 敏（公益社団法人日本医師会常任理事）

大野元裕（埼玉県知事）

中山讓治（日本製薬工業協会会長）

脇田隆字（国立感染症研究所所長）

パネルディスカッション

<特別寄稿>

「患者—医師間コミュニケーション研究に見る『患者中心の医療』という概念の進化」

石川ひろの（帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授／

帝京大学医療共通教育センター教授）

<研究論文>

「ガン相談支援センターの相談記録データへのテキストマイニングを用いたパターンと傾向
の分析」

三苫美和（神戸女子大学看護学部助教）他

2) 編集委員会開催

(1) 第1回編集委員会

① 日時： 2020年11月11日（水）14:00～15:40、リモート併用

② 出席者

〈委員〉中村 洋委員長、秋山美紀、池田俊也、橋本英樹、三村優美子

〈オブザーバー〉江利川 毅、戸田健二

〈事務局〉川村高紀、五十嵐裕子

③内容

i) Vol. 32, No. 1 特集テーマの検討

Vol. 32, No. 1 (2022年4月発行予定)に掲載する特集のテーマと編者について、議論がなされた。事前に役員に募集したところ、田中評議員と廣部監事から、感染症あるいは新型コロナ問題に関しての提案があった。

委員会として、新型コロナを取り上げ、メインはファーストフェーズに絞り、何が起こってどう対処されたか、そこから得られた教訓はなにか、その後何が活かせるかを想定するが、具体的な内容は、橋本先生を中心に武藤香織先生と岡部信彦先生（川崎市健康安全研究所所長、新型コロナ分科会メンバー）が相談しながら進めることになった。

ii) 2019年度投稿論文査読結果状況報告

全委員が採否の返信を見る現在の手順では、委員の1人が否定すると他の委員が反対意見を述べにくい状況があるため、事務局が委員に個別に連絡して審査結果を集

計し、委員間で意見が分かれるようであれば、委員長が判断することにした。また、意見収集に際しては、期限を設けて運用することにした。

論文によっては、審査完了までに時間がかかっているものがある。経過説明をしているのでクレームはないものの、「医療と社会投稿論文審査手順と時間目安」に従い、事務局として時間管理を改善するようにする。

iii) 掲載予定の依頼論文状況報告

昨年度の編集委員会で検討された特集テーマなどに関連する著名論文の翻訳を依頼論文として掲載する件に関して事務局より報告がなされた。

iv) 2019年度 J-STAGE 掲載論文のアクセス数状況報告

理事会で問い合わせのあった J-STAGE における「医療と社会」掲載論文のアクセス数について、事務局から報告がなされた。2019年4月～2020年3月の期間において pdf としてダウンロードされた数の上位 10 件が報告された。最多は、2015年 Vol. 25, No. 1 掲載の清水哲郎「本人・家族の意思決定を支える」(特集論文)の 19357 件で、研究論文でも 15808 件、ダウンロードされているものがあつた。

v) Vol. 31 巻頭言執筆者

事務局より来年度の Vol. 31 の巻頭言執筆者について報告がなされた。巻頭言の執筆者は委員会が承認した「執筆依頼順ルール」により役員に依頼する。「執筆依頼順ルール」に従い、No. 1:遠藤久夫先生、No. 2:白神誠先生、No. 3:中村洋先生、No. 4:橋本英樹先生を予定する。

3) 「医療と社会」 Vol. 31, No. 1 特集「患者自己負担の在り方を考える」座談会開催

Vol. 31, No. 1 (2021年4月) 掲載予定の特集のため、患者自己負担のこれまでの制度の経緯を把握することを目的とした座談会が企画された。

(1) 日時：2020年7月31日(金) 15:00～18:00

(2) 会場：医研会議室

(3) 参加者

<座談会メンバー>

和田 勝 (元厚生労働省大臣官房審議官 [医療保険・老人保健担当]、国際医療福祉大学大学院客員教授)

堤 修三 (元厚生労働省老健局長、元社会保険庁長官、元大阪大学大学院 [人間科学研究科] 教授)

中村秀一 (元厚生労働省老健局長、国際医療福祉大学大学院教授)

<特集編者>

中村 洋 (慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授)

<インタビューアー>

新田秀樹 (中央大学法学部教授)

島崎謙治 (国際医療福祉大学大学院教授)

三谷宗一郎 (医療経済研究機構研究部研究員)

江利川 毅 (医研理事長)

横内陳正 (医研研究員)

<事務局等>

戸田健二、五十嵐裕子

2. 医研シンポジウム (医研直轄)

1) 医研シンポジウム 2020/医療科学研究所創立 30 周年記念の開催

- (1) テーマ：「新型コロナウイルス—これまでを振り返り、秋冬に備える—」
- (2) 日時：2020年9月11日(金) 13:30～17:00
- (3) 会場：灘尾ホール (新霞が関ビルLB階)
- (4) 参加者数：114名 (報道関係者36名)
- (5) 後援：厚生労働省
- (6) 座長：尾身 茂 (独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)理事長、新型インフルエンザ等対策有識者会議新型コロナウイルス感染症対策分科会会長、医研評議員)
- (7) プログラム：

来賓挨拶：加藤勝信 厚生労働大臣

講演：(発表順)

〈座長基調講演〉

尾身 茂

〈講演〉

鈴木康裕 (前厚生労働省医務技監)

釜菴 敏 (公益社団法人日本医師会常務理事)

大野元裕 (埼玉県知事)

中山譲治 (日本製薬工業協会会長)

脇田隆字 (国立感染症研究所所長) ※

〈パネルディスカッション〉

座長：尾身 茂

パネリスト：鈴木康裕、釜菴 敏、大野元裕、中山譲治、脇田隆字※

(※リモートにて参加)

- (8) アンケート：回収 53 枚 回収率 53/114 46.5%

医研シンポジウム2020アンケート集計

設問1:シンポジウムの全体的な感想					
項目	大変満足	まあまあ満足	やや物足りない	物足りない	合計※
回答数	29	11	2	1	43
%	67.4%	25.6%	4.7%	2.3%	100.0%

※無回答(10)は含めず

設問2:シンポジウムに参加した目的(複数回答可)									
項目	新型コロナウイルス問題の内容や考え方を知らため	新型コロナウイルス問題に向けて政府・地方自治体等の方針を知りたいから	新型コロナウイルス問題は、今後の業務の対象となり得るかもしれないから	自分が今行っている仕事に関係しているため	各自治体や企業等が新型コロナウイルス問題に対処するためには何が必要かを知るため	座長・パネリストへの関心	参加者とのコミュニケーション	一般的な情報収集	
回答数	38	28	15	24	14	16	0	1	
%	71.7%	52.8%	28.3%	45.3%	26.4%	30.2%	0.0%	1.9%	

*アンケート回収率：46.5% 53枚/114名(参加者)

参加者内訳									
項目	医療機関	大学・研究機関	公務員	医療関連企業	その他企業	報道・出版	その他		合計
参加者数	4	7	3	20	5	7	7		53
%	7.5%	13.2%	5.7%	37.7%	9.4%	13.2%	13.2%		100.0%

創立 30 周年記念シンポジウムとして加藤勝信厚生労働大臣（当時）に来賓の挨拶をいただいた。時宜を得たテーマとして注目度も高く、コロナ禍の関係で入場者数を制限したが、報道関係者を含めて参加枠一杯の参加者を得た。諸般の事情により、脇田先生は急遽オンライン参加となったが、適切に対応できた。また今回は初めての試みとして、講演動画を医研ホームページで公開し、総計で6万件ほどのアクセスがあり関心の高さが窺えた。

3. 産官学懇談会（産官学懇談会事業等委員会）

1) 産官学シンポジウム 2020

「医療のパラダイムシフト、医療産業は如何なる事業戦略を組むべきかーエコシステムがイノベーション創出の突破口となりえるか」をテーマとして5月16日開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い1年後に同じような視点で開催を考えることにした。

2) 2020 年度第 1 回産官学懇談会事業等委員会

(1) 日時：2020 年 9 月 29 日（火）10:00～11:40

(2) 出席者

〈委員〉石川真澄、上出厚志、近藤尚己、林 俊宏、宮田裕章、中村 洋

〈オブザーバー〉江利川 毅、戸田健二

〈事務局等〉嚙口 肇、川村高紀、今上妙子、林 真澄美

(3) 内容

① 委員長選任

3 期 6 年間委員長を務めていただいた白神先生の後任として、全員一致で宮田委員への推薦に賛同し、新委員長が決定した。

② 2021 年度産官学シンポジウム

5 月に予定していたシンポジウムは、新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催を取り止めた。一方で、新型コロナウイルス感染拡大や新政権発足によって情勢も大きく変化しており、エコシステムの重要性は認識しつつも、シンポジウムのタイトル、概要、それに沿うシンポジスト候補も改めて見直す方向で検討した。

医薬品産業界も新ビジネスモデルとして医療から予防領域も含むヘルスケアという概念へビジネスモデルの拡大を考えつつあること、また、政府が進めるデジタル改革の中で医療関連分野での変化の可能性があるのか、例えば、既に国で承認された CureApp 社の喫煙防止アプリ等が今後いかなる国民の行動変容に繋がるか等に興味を示された。一方、ヘルスケアの観点からリモート診療に関する今後の方向性、新時代における診療報酬の在り方、病気になるまで待つという概念から日常生活の中で病気を未然に見出し、悪化させないという幅広いヘルスケア概念への転換等の課題が議論された。

これらの課題意識と時代の変化に対応できるインセンティブとはいかなるものかを含めて議論する必要があるとの見解で委員会は一致した。

以上の視点を更に明確にするため少人数懇談会を行い、そこでの意見や情報をもとに来年度の産官学シンポジウムのタイトル、シンポジストの候補者を検討することとなった。

3) 2020 年度第 2 回産官学懇談会事業等委員会

(1) 日時：2021 年 1 月 15 日（金）17:30～17:45

(2) 出席者

〈委員〉宮田裕章委員長※、石川真澄※、岡田安史※、上出厚志※、近藤尚己※、中村 洋、林 俊宏※、野口晴子※

〈事務局等〉江利川 毅、戸田健二、川村高紀、今上妙子、五十嵐裕子

(※リモートにて参加)

(3) 内容

2021年5月開催予定の産官学シンポジウムのタイトルと今後の手筈について議論された。タイトルについて、事務局より仮案として「新型コロナを経験した社会における新しいヘルスケアの在り方」が提示された。委員からは、内容をもう少し絞る必要があるのではないかと、また、シンポジウム開催時の5月時点は未だコロナの終息とはなっていないであろうことから、少なくともアフターコロナではないとの意見が出された。

タイトル案とシンポジストの案は、委員会直後に開催される産官学少人数懇談会での内容を踏まえて事務局が各委員から提案を集め、その結果をもとに委員長と決定することで委員会の了解を得た。

野口委員より、参画されているワクチン生産部会(厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会 研究開発及び生産・流通部会)での話題として、ワクチン情報が初めてデジタル化される動きがあり、ワクチン供給側と需要側のデータ蓄積が一気に進むであろうことが、情報として提供された。

4) 産官学少人数懇談会

(1) 日時：2021年1月15日(金) 18:00~20:15

(2) テーマ：「アフターコロナ時代における医療関連領域の変化と可能性」

(3) 座長：宮田裕章 産官学懇談会事業等委員会委員長※

(4) 参加者

<厚生労働省>

林 俊宏 (厚生労働省医政局経済課長/産官学懇談会事業等委員会委員) ※
藤岡雅美 (厚生労働省健康局健康課 課長補佐)

<大学>

児玉 充 (日本大学商学部・大学院商学研究科教授) ※
近藤尚己 (京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻教授) ※
梶山泰生 (京都大学経営管理大学院教授) ※
中村 洋 (慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授/産官学懇談会事業等委員会委員)

<企業>

石川真澄 (アストラゼネカ㈱コーポレーションアフエアーズ統括部渉外部長/産官学懇談会事業等委員会委員) ※
岡田安史 (エーザイ株式会社代表執行役 COO/産官学懇談会事業等委員会委員) ※
上出厚志 (アステラス製薬㈱常務担当役員渉外部長/産官学懇談会事業等委員会委員) ※
佐竹晃太 (株式会社 Cure App 最高経営責任者 (CEO)) ※
内藤景介 (エーザイ株式会社執行役チーフデジタルオフィサー (兼) ディメンシアトータルインクルーシブエコシステム担当) ※
長岡貞男 (日本製薬工業協会医薬産業政策研究所所長/産官学懇談会事業等委員会委員) ※
森 和彦 (日本製薬工業協会専務理事) ※
吉田 力 (第一三共株式会社渉外部長) ※

(※リモートにて参加)

(5) 講演者と講演テーマ

- ① 梶山泰生：ビジネス・エコシステムの視点
- ② 児玉 充：デジタル時代におけるビジネス転換

- ③ 藤岡雅美：健康と健康づくりを再定義する-Health as the ability-
- ④ 佐竹晃太：コロナ時代に於ける医療関連領域の変化とデジタル医療による治療用アプリ
- ⑤ 内藤景介：当社の認知症エコシステムへの取り組み

4. 医研直轄

1) 医療政策ヒストリー座談会事業活動報告

(1) 座談会で取り上げるテーマ、座談会参加者

大きな医療保険制度の改正を取り上げ、その実務に携わった行政担当者4～5名に参加していただき、座談会を開催する。第一段階は1980年ころから2000年ごろまでの改正を追っていくこととし、必要に応じ、医療法、薬事法等の関連分野を取り上げる。座談会は実務を担当した課長、課長補佐を中心に行う。第二段階は2000年以降の改正を取り上げ、新たに経済財政諮問会議ができて総理の係わりが大きくなったことを踏まえ、局長、審議官、課長4～5名で座談会を行う。可能な場合には外部の関係者のインタビューを行う。

(2) 運営組織（コアメンバー）

主任研究者：新田秀樹（中央大学法学部教授、元厚生労働省勤務）

研究補助者：三谷宗一郎（医療経済研究機構 研究部協力研究員）

アドバイザー：島崎謙治（国際医療福祉大学大学院教授、元厚生労働省勤務）

監修：江利川 毅（医研理事長）

監修補佐：横内陳正（医研研究員）

(3) 2020年度第1回コアメンバー会議

① 日時：2020年5月12日（火）

② 参加者：榮畑 潤、原 勝則、新田秀樹、島崎謙治、三谷宗一郎、江利川 毅、戸田健二

③ 事務局：嚙口 肇、横内陳正、五十嵐裕子、記録：大久保 豪

④ 内容：平成18年医療制度改革に関するフリートーキング

i) 座談会の開催方法について

ii) 候補者

iii) 論点整理メモに追加すべき事項

(4) 第7回医療政策ヒストリー座談会

① 日時：2021年1月19日（火）15:00～18:00

② 参加者：榮畑 潤、唐澤 剛、中島正治※、水田邦雄、宮島俊彦、新田秀樹、島崎謙治、三谷宗一郎、江利川 毅（※リモートにて参加）

③ 事務局等：戸田健二、川村高紀、五十嵐裕子、今上妙子、横内陳正、記録：大久保 豪

④ テーマ：2006（平成18）年医療保険制度改革

(5) 第7回医療政策ヒストリー座談会個別インタビュー（辻 哲夫先生）

① 日時：2021年3月23日（火）10:00～12:00

② 参加者：辻 哲夫※、新田秀樹、島崎謙治、江利川 毅（※リモートにて参加）

③ 事務局等：川村高紀、五十嵐裕子、今上妙子、横内陳正、記録：大久保 豪

④ テーマ：2006（平成18）年医療保険制度改革

2) 医研シリーズ本の刊行

本年度は第3弾として2020年6月刊行の『医療と社会』特集号「医療コミュニケーション環境整備の課題と展望－改正がん対策基本法への対応を中心に」をベースとしたシリーズ本を2021年3月に発刊すべく、準備を行なっている。

(1) 書籍のタイトル：「徹底研究 患者本位のがん医療」、サブタイトル「改正がん対策基本法を踏まえて」

(2) 発行部数：800部、本体価格：1800円（税抜き）、発刊日：2021年3月

1. 自主研究（自主研究委員会）

1) 2020年度第1回自主研究委員会の開催

(1) 日時：2020年11月24日（火）12:00～13:45 リモート併用

(2) 出席者：

〈委員〉近藤克則委員長、泉田信行、中村 洋、橋本英樹

〈オブザーバー〉江利川 毅、戸田健二

〈事務局〉川村高紀、五十嵐裕子

(3) 内容

①委員長選任

近藤委員長は1期（2018-2019年度）が終了し、委員会規程により再任が可能となっている。理事長からの推薦があり、出席委員の同意が得られ、委員長に再任された。

②委員会活動のあり方について

i) プロジェクトの推進スケジュール、ii) プロジェクトと自主研究委員会の関わり方の2点について意見交換した。

i) については、プロジェクトの推進スケジュール素案を事務局で用意し、自主研究委員会で確認する。ii) については、自主研究委員会でプロジェクトのオブザーバーとして主担当・副担当を決めて、そのどちらかが毎回のプロジェクトの会議に出られるように日程調整を行う。プロジェクトに参画するオブザーバーの役割については、事務局で用意し、自主研究委員会で検討して委員会で共通認識を持つ。また、プロジェクトの報告の骨子が見えてきた段階（4月スタートなら夏ごろを目途）で、自主研究委員会に報告してもらい議論する。

③「健康政策における『地域・コミュニティ』のコンセプトマッピング」プロジェクト進捗状況報告

プロジェクトコアメンバーである橋本委員と林研究員から報告された。最終報告は自主研究委員会で行うこととなった。

④「美しき有終」プロジェクト進捗状況報告

津田研究員から報告された。

2) 2020年度第2回自主研究委員会の開催

(1) 日時：2021年2月18日（木）13:30～15:30

(2) 出席：

〈委員〉近藤克則委員長※、萱間真美※、中村 洋、橋本英樹

〈オブザーバー〉江利川 毅、戸田健二

（※リモートにて参加）

〈事務局〉川村高紀、五十嵐裕子

(3) 内容

①自主研究プロジェクトの推進スケジュールイメージ（案）と自主研究委員会の役割について

事務局から示された自主研究プロジェクトの推進スケジュール案とプロジェクトに係る自主研究委員会の役割案について議論がなされ、議論の内容を踏まえて、それぞれを改訂することになった。

② 「健康政策における『地域・コミュニティ』のコンセプトマッピング」プロジェクト最終報告

コアメンバーである橋本委員より最終報告がなされた。

③ 「美しき有終」プロジェクト中間報告

ファカルティフェローの池上先生（リモートにて参加）と津田プロジェクト研究員よりプロジェクト初年度の中間報告がなされた。

3) 「健康政策における『地域・コミュニティ』のコンセプトマッピング」プロジェクト

(1) 2020年度第1回コアメンバー会議

① 日時：2020年5月21日（木）14:00-16:00 リモート併用

② 参加者

〈ファカルティ・フェロー〉 田中 滋

〈コアメンバー〉 橋本英樹、秋山美紀、堀田聡子、宮垣 元

〈プロジェクト研究員〉 林 真澄美

〈オブザーバー〉 江利川 毅、戸田健二

〈事務局〉 喟口 肇、五十嵐裕子

③ 内容

i) 橋本先生より有識者会議を踏まえた対応説明

ii) 2019年度の報告書

本会議で先生方から頂戴したご意見に基づき修正を行った後、メール稟議を経て自主研究委員会へ提出され、医研ホームページに掲載する。

iii) 2020年度研究事業の進め方

2020年度研究事業に関しては、今般のコロナ感染拡大の状況を鑑み、当初定めていた研究計画が変更された。新たな計画では、新型コロナウイルス感染症のような困難な状況にもかかわらず地域・コミュニティ組織が柔軟かつ前向きに活動を推し進めることができた根底にある要素について事例研究より調査する。

(2) 第1回コアメンバー会議後の活動状況

① 事例研究調査団体についてコアメンバーから推薦を受けた（2020年6～7月）。

② 文献初期調査の実施（2020年7月）

③ 文献初期調査の結果に基づき、調査対象を「豊中市社会福祉協議会」「NPO法人ワンダフルキッズ」に絞り、さらに調査した（2020年8月）。

④ 調査結果について橋本先生と林研究員でオンライン会議の実施（2020年9月3日）

⑤ 入手可能な文献からは得られない調査対象団体の情報についてコアメンバーよりオンライン会議でヒアリングを実施した（2020年9月14日）。

⑥ 医療経済研究会において中間発表（橋本先生、2020年9月28日）

⑦ 追加事例対象となる団体についてコアメンバーから推薦を受けた（2020年9～10月）。

⑧ 追加事例対象として「東京タウンプロジェクト」「認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸」を調査した（2020年10月～）。

(3) 2020年度第1回自主研究委員会において中間報告（2020年11月24日）

(4) 2020年度第2回自主研究委員会において最終報告（2021年2月18日）

(5) プロジェクト研究員の異動

林 真澄美プロジェクト研究員は、2021年2月15日付で医研を退職し、東京大学に異動した。

4) 「美しき有終」プロジェクト

(1) 2020年度第1回コアメンバー会議

① 日時：2020年7月14日（火）14:00～15:55

② 参加者

〈ファカルティ・フェロー〉池上直己
〈コアメンバー〉石橋智昭、高木安雄、星芝由美子
〈プロジェクト研究員〉津田修治
〈オブザーバー〉江利川 毅、戸田健二
〈事務局〉囃口 肇、五十嵐裕子

③ 内容

i) プロジェクト計画

津田研究員から計画書をもとにプロジェクトの計画を発表した。

ii) プロジェクトの計画に対する議論

iii) 認知症の人の看取りについてフリーディスカッション

iv) 今後のコアメンバー会議

- ・ コアメンバー会議のスケジュールについて、2ヶ月に一度をベースに必要なに応じて実施する。次回以降、全員オンラインでのミーティングも必要なに応じて検討する。
- ・ 看取りには看護の立場が重要だが、現在は看護師がメンバーに入っていない。廣岡佳代先生を次回の会議からメンバーとして参加いただくことの提案に対し、全員一致で決定した。

(2) 2020年度第2回コアメンバー会議

① 日時：2020年9月23日（火）14:00～15:50

② 参加者

〈ファカルティ・フェロー〉池上直己
〈コアメンバー〉石橋智昭、高木安雄、廣岡佳代、星芝由美子
〈オブザーバー〉江利川 毅、戸田健二
〈プロジェクト研究員〉津田修治
〈事務局〉囃口 肇、五十嵐裕子

③ 内容

i) プロジェクトの進捗報告と検討事項の発表

ii) 検討事項等についての討論

iii) 今後の予定と次回会議

次回のコアメンバー会議までに文献選択を終えて、結果の分析まで済ませて提示する。加えて、なぜ認知症に着目するのか、コロナの影響をどう反映させるかの記述が必要である。また、投稿先を決めて、読者を想定して進めることが必要である。

(3) 2020年度第1回自主研究委員会において中間報告（2020年11月24日）

(4) 2020年度第3回コアメンバー会議

① 日時：2020年11月24日（火）14:00～16:00

② 参加者

〈ファカルティ・フェロー〉池上直己
〈コアメンバー〉石橋智昭、高木安雄、廣岡佳代、星芝由美子

〈オブザーバー〉：江利川 毅、戸田健二

〈プロジェクト研究員〉津田修治

〈事務局〉川村高紀、五十嵐裕子

③ 内容

i) プロジェクトの進捗報告と検討事項の発表

ii) 検討事項等についての討論

iii) 今後の予定と次回会議

次回のコアメンバー会議は 1 月下旬に予定し、中間報告のたたき台を用意して検討する。

(5) 2020 年度第 4 回コアメンバー会議

① 日時：2021 年 2 月 3 日（水）14:00～16:00

② 参加者

〈ファカルティ・フェロー〉池上直己

〈コアメンバー〉石橋智昭、高木安雄、廣岡佳代、星芝由美子

〈オブザーバー〉：江利川 毅

〈プロジェクト研究員〉津田修治

〈事務局〉川村高紀、五十嵐裕子

③ 内容

i) 中間報告についての討議

ii) 次年度の研究計画案

(6) 2020 年度第 2 回自主研究委員会において中間報告（2021 年 2 月 18 日）

（ 以 上 ）